

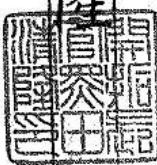
賜金無之ハ実際取扱上ニ對シ不都合ノ以第モ有之
候間自今右電信技術者限リ名義ニ不關工部省
工術等給表ニ照準満年賜金被下方取計度候
條御裁可相成度此段相伺候也

明治十三年八月十三日 開拓長官黒田清隆

太政大臣三條実美殿

向々趣難前届候事

明治十三年九月二十日



甲 第貳 棺六號

経費科目流用ノ義ニ付同

昨十二年十二月廿七日第五拾號ヲ以テ御達相成候
経費科目條例第三條ニ小科目以上ノ費額流用ヲ許
サヌ若ニ止ニ得サル事故アリテ之ヲ流用セントス
ル時ニ其事由ヲ具ニ太政官へ同出ヘント有之然ル
ニ當使経費ノ義ハ去明治五年ヨリ十ヶ年間定額金
ヲ定メテ諸収入金ヲ併テ御交付相成右ヲ以諸般
ノ經營御委任相成候ニ付年々御交付額ニ對ニ各廳
ヨリ豫算ヲ徵ニ一周年ノ目途豫定候事ニ候得共元
來當使施設ノ事業多ハ新創ニ属スルヲ以テ今日是
認スルモノモ實驗上ヨリ他日更スルヲナキ能ハ
ス且實際ノ都合ニ因リ甲ノ事業ヲ減縮ニテ乙ノ事
甲ニ。

業ヲ擴張シ或ハ甲部ノ殘金ヲ以乙部ノ不足ヲ補ヒ
彼此流用スルハ實際當使事業上不得止儀ニ付空額
御渡年限中ハ伺フ經ス從前ノ通例宜流用支辨仕度
候條速ニ御允許相成度此段相伺候也

明治十三年八月廿六日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

同趣難聞届事

明治十三年十二月二十八日



別紙火災件上申方儀ハ御伺出ノ通ニテ可然
候條此旨申入候也

明治十三年八月廿八日

内閣書記官

開拓書記官

法中